

の質を確保している。

(点検・評価の結果)

大学全体としての成績評価の方法は「シラバス」で公表し、学生に周知しているが、多くは「総合的に評価する」との文言のみがあり、さらに明確に評価基準を示す必要がある。

成績評価について、FD研修会などで、厳格に行う仕組みを検討し、公平な採点が行われるよう、さらなる努力が必要である。

2005年度より導入されたGPA制度については、それをどのように学部教育に取り入れ、生かしていくかを議論し、積極的な利用法を考えなければならない。

(改善の具体的方策)

FD研修を通して、明確な評価基準のあり方を学び、シラバスに明示することで、授業運営を改善する。

1.1.4.5 教育の質の向上

【評価項目 6-5-1】 教育改善への組織的な取り組み

- (必須要素) 学生の学修の活性化と教員の教育指導方法の改善を促進するための措置とその有効性
- (必須要素) シラバスの作成と活用状況
- (必須要素) 学生による授業評価の活用状況
- (必須要素) FD活動に対する組織的取り組み状況の適切性
- (選択要素) FDの継続的实施を図る方途の適切性
- (選択要素) 学生満足度調査の導入状況
- (選択要素) 卒業生に対し、在学時の教育内容・方法を評価させる仕組みの導入状況
- (選択要素) 高等教育機関、研究所、企業等の雇用主による卒業生評価の導入状況
- (選択要素) 教育評価の成果を教育改善に直結させるシステムの確立状況とその運用の適切性

<2003年度に設定した目標>

学生の学修の活性化を目指して、シラバスを活用し、授業を改善する。そのために、次のような施策を行う。

1. 授業評価を通して、学生のフィードバックを受け、授業改善に役立てる。
2. FD研修会を継続的に開催して、教員の意識改革に努める。
3. シラバスの作成について、学部として共通の理解を持ち、それに基づいて明確なシラバスを学生に提示する。
4. 神学部学術奨励基金によって成績優秀学生を顕彰する。

神学研究科では神学部学術奨励基金を用いて、優秀な成績の学生を顕彰しているが、学部においても学習意欲を盛り上げるため同様の顕彰をする。その際、2005年度より導入されるグレイド・ポイント・アベレージ制度(GPA)の活用も検討する。

(現状の説明)

学生の学修態度は、その目的意識によっている部分が多い。その点、神学部は、キリ

スト教会における伝道者を育成することを設立の目的とし、入学する学生もそのことを十分に理解しているので、これまでは、学修は比較的活発に行われてきたと言ってよい。しかしながら、学生のニーズが多様化し、卒業後の進路についても様々な希望を持つ者が増えてくると、伝統的な神学諸科の学修に意義を見いだせない学生が増えているのも現実である。

そこで、授業においては、知的な活性化を目指し、担当教員が努力をしている。演習等をのぞく全科目においてシラバスを作成、それに沿って授業が行われている。シラバスの重要性は年々、学生に理解されるようになっており、教員も詳しいシラバスを作成することが求められるようになってきている。また、少人数の学部であることから、学生の声が届きやすく、実際に、学生との対話の中で、レジュメを詳しくしたり、資料を配付したり、トピックスを修正したりするなど、授業の進め方を工夫することが弾力的に行われている。

FD活動は、全学的には、教務委員会のもとにファカルティ・ディベロップメント部会(以下、FD部会という)を設置し、授業改善についての組織的な取り組みを行っている。神学部においても、全学のFD部会委員でもある教務主任のもと、授業改善に対する意識向上と実際の改善を目的に、毎年6月と11月に「FD推進月間」中に研修会を開くなどしている。2004年秋学期は、新カリキュラム(2004年度入学生より適用)の運用と、学生の学修態度をめぐって、春学期と秋学期前半のふり返りを行い、今後どのような取り組みが必要になるかを議論した。

学生による授業評価は、これまでも行われ、授業改善に役立てられてきた。総合教育研究室が教育に関する調査活動の一環として行っている授業調査を利用してきた者もあり、また、独自のコメントカードや平常リポートによって学生からの意見を聞く者もあった。2005年度春学期からは統一様式によって全学一斉に行われ、神学部においてもすべての開講科目(計49科目)につき、授業評価を行った。

(点検・評価の結果)

このような授業改善への取り組みも、各教員に任せられているのが現状で、教員によって温度差が存在していることは否めない。また、少人数であるが故に、教員が学生のニーズを理解していると思いきやこぼれ落ちる恐れもある。むしろ、統一的な様式によって、客観的に授業評価を受け、それをもとに、授業改善に、さらに積極的に取り組む努力が必要であろう。

独自に授業評価を行う教員も、評価等を受けた上での、学生へのフィードバックが十分なされているとはいえず、そのことが分かりやすい形で学生に提示されなければならない。

(改善の具体的方策)

今後とも、FD研修会を中心に、授業は学生と教員とが協力して作り上げていくものであるという意識を涵養する。2005年度に行われる全学一斉の授業評価を機に、学生からのフィードバックをどのように授業改善に役立てるかをテーマに、学びを深める。